

る。その結果、男子高年労働力とともに新しい「過剰労働力」を形成する可能性が強いが、しかし、雇用労働力が徐々に定着する過程で、女子の就業構造近代化の歩みもまた進むものと考えられる。

(中野英子・池ノ上正子)

3 農業労働力の動向

(1) 農業就業者の激減と兼業化

農業労働力の変動は、それ自体が農業生産の水準を左右する基本要因としての意義を持っているが、さらに就業構造全体の問題としてみれば、農業従事者は他の就業部門労働力と明確に区分することが必ずしも容易でなく、この点で特異な性格を持っている。

農業労働力の範囲や区分が不明確になる理由は、世帯の農業労働力のなかに、自家農業を主とする労働力のほかに、第1に、他産業への在宅兼業者が多数含まれることであり（農外主農業従）、第2に、家事・育児・通学などを主とする世帯員が農業手伝いとして労働力化していることである（非労主、農業従）。

したがって農業労働力の時系列的な推移をみるに際しては、ひろく農家人口の性格区分を前提としてとらえることが必要かつ有効である。この観点から表12においては、就労可能な16歳以上農家世帯員について、これを農業労働とのかかわり方から区分し、その推移を昭和35～50年間にわたる5年ごとの変化でみている。

表12 16歳以上の農家世帯員の就業状態（昭和35～50年）

（人口単位：千人）

就業状態	年次				増減(△)率(%)			指数 50/35× 100
	昭和35	昭和40	昭和45	昭和50	年 40/35	45/40	50/45	
16歳以上の農家世帯員	22,486	20,599	19,605	18,093	△ 8.4	△ 4.8	△ 8.7	80
就業者	19,462	17,396	17,010	15,235	△ 10.6	△ 2.2	△ 11.3	78
農業従事者	17,656	15,443	15,466	13,732	△ 12.5	0.1	△ 12.1	78
農業就業人口	14,542	11,514	10,252	7,907	△ 20.8	△ 11.0	△ 23.6	54
基幹的農業従事者	11,750	8,942	7,048	4,889	△ 23.9	△ 21.2	△ 31.6	42
家事育児等主、農業従の者	2,792	2,573	3,204	3,018	△ 7.8	24.5	5.9	108
農外主、農業従の者	3,114	3,927	5,214	5,825	26.2	32.7	10.6	188
農外のみ従事者	1,806	1,952	1,545	1,503	8.1	△ 20.9	△ 3.9	83
非就業者	3,024	3,203	2,594	2,857	5.9	△ 19.0	8.6	95

資料：「昭和50年度農業白書付属統計表」121ページ。

表1において、「農業従事者」は16歳以上で年間多少とも自家農業に従事した農家世帯員であり、そのなかから「農外主、農業従」つまり農業外の仕事が主で農業は従である人を除いた部分が「農業就業人口」とされる。この意味の農業労働力が昭和35年の1,454万人から50年の791万人へ指数で54、半減に近い縮小となった。これに対して「農外主、農業従」の世帯員は311万人から583万人へ88%の増加である。つまり兼業労働の激増である。

兼業農家の増加は「農外主、農業従」と「農外のみ従事者」とによって引き起されるが、しかしこのうち「農外のみ従事者」は181万人から150万人へむしろ減少傾向（指数83）となっている。した

がって兼業農家の増加は世帯員の在宅兼業化とくに通勤兼業化を可能にした条件、つまり農業経営の側における機械化の進展と都市産業の側における労働需要の拡大とを大きな要因として進行し、それだけ「農業従事者」の減少を弱めている（指数78）。

しかしさらに「農業就業人口」の内分けをみるならば、ふだん仕事が主であって、かつそれが自家農業のみまたは自家農業が主であるような中心的な農業労働力（「基幹的農業従事者」と呼ばれる）と、ふだん家事・育児・通学などを主としつつ自家農業にも従事する者との二分される。この「基幹的農業従事者」は昭和35年の1,175万人から50年の489万人へ5年間ごとに20～30%の減少を続けてきた（指数で42）。昭和50年の489万人は「農外主、農業従」労働力の583万人をすでに下まわるに至った¹⁾。この農業基幹労働力の激減は、それにもかかわらず農業生産が米の過剰を恒常化するほどに拡大された実績からいえば、農業経営の合理化への道を示唆してはいるが、しかし農業労働力の高齢化と世代交替の観点からみれば、長期的な見とおしとして重大な内部変化を意味している。

（2）農業労働力の高齢化

農業就業人口について、その男女年齢5歳階級別推移を昭和30～50年の5年ごとに追跡した結果が表13となる（このデータは人口センサスによる）。この時系列のうち、昭和30年と50年を年齢ピラミッドで対比したグラフが図8である²⁾。

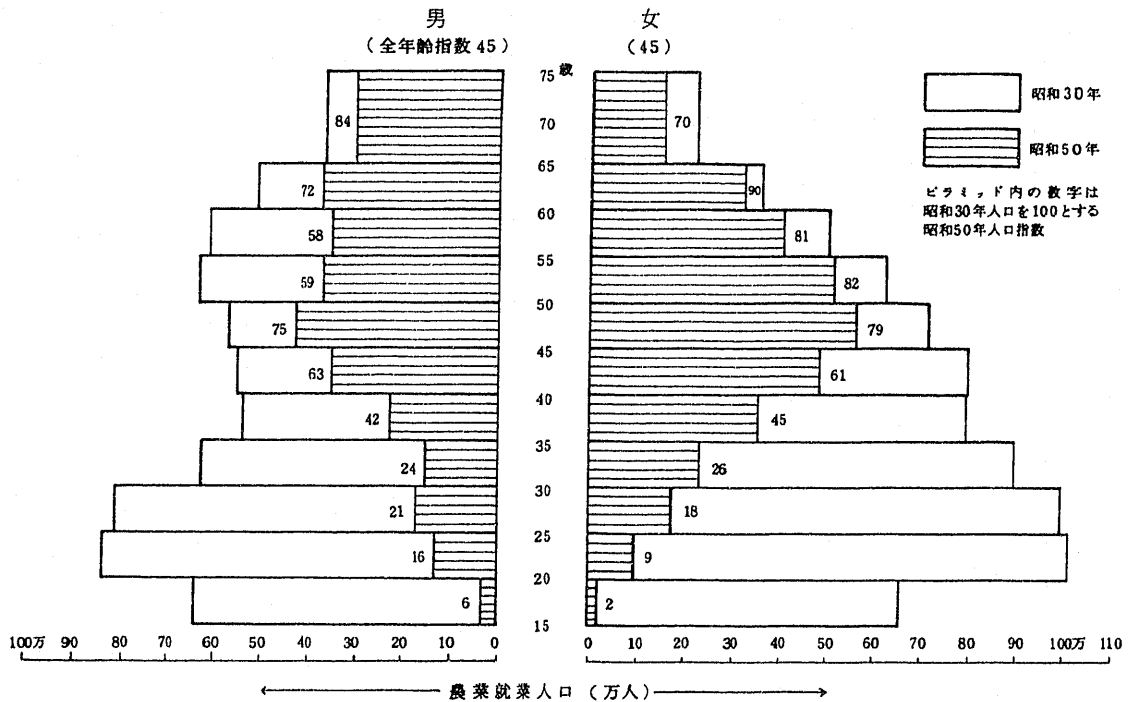
表13 農業就業人口の推移および指数（昭和30～50年）

年 次 年 齢	昭和30	昭和35	昭和40	昭和45	昭和50	指 数 (50/30× 100)
男						
計	7,092,022	6,012,219	5,011,565	4,150,355	3,214,665	45.33
15 ～ 19	641,637	333,412	166,707	109,350	36,790	5.73
20 ～ 24	836,369	479,393	229,833	218,515	131,492	15.72
25 ～ 29	812,544	619,862	340,034	185,170	170,430	20.97
30 ～ 34	628,941	680,885	502,397	280,010	150,433	23.92
35 ～ 39	547,196	549,652	595,777	427,180	229,672	41.97
40 ～ 44	554,509	485,043	495,512	509,930	351,816	63.45
45 ～ 49	575,112	496,770	446,963	435,530	433,232	75.33
50 ～ 54	633,515	521,973	467,235	399,955	370,616	58.50
55 ～ 59	615,606	583,721	508,794	420,890	355,155	57.69
60 ～ 64	515,508	522,678	522,131	436,765	372,159	72.19
65 ～	731,085	738,821	736,182	727,060	612,870	83.83
女						
計	7,798,266	7,108,834	5,855,128	5,183,605	3,484,917	44.69
15 ～ 19	656,278	357,301	124,564	70,185	13,987	2.13
20 ～ 24	1,011,407	673,070	303,603	226,385	90,652	8.96
25 ～ 29	994,086	827,256	518,401	316,225	178,508	17.96
30 ～ 34	897,238	919,318	716,700	485,440	235,508	26.25
35 ～ 39	792,296	854,132	826,611	652,440	353,784	44.65
40 ～ 44	798,896	745,550	773,622	736,910	484,245	60.61
45 ～ 49	712,136	728,481	673,257	699,410	565,624	79.43
50 ～ 54	622,120	618,803	641,188	593,765	513,207	82.49
55 ～ 59	504,482	516,938	521,536	541,615	408,521	80.98
60 ～ 64	362,572	391,065	384,657	415,430	327,015	90.19
65	446,755	476,920	370,989	445,800	313,866	70.25

資料：「国勢調査」各年

1) 専兼別農家数の構成比は、昭和35年の専業34.3%、1種兼33.7%、2種兼32.0%から、昭和50年には12.4%—25.4%—62.1%に移行した。

図 8 男女年齢 5 歳階級別農業就業人口ピラミッド
——昭和30年と昭和50年の比較——



注) 65歳以上人口は、65～70、70～75歳人口として2等分。
資料：表13による。

表13において、農業就業人口は全体として男女とも昭和30年の700万人台から50年の300万人台へ減少したことが示されるが（指数で45）、年齢別にみた減少のちがいはきわめて大きい。最大の減少は女子15～19歳の66万人から1.4万人へ、これは指数で僅か2.1であり、その他年齢層においても、男女とも40歳未満の各年齢層は平均指数を下まわる減少である。これに対して40歳以上就業者の減少は指数で58～90のレベルにとどまり、また男女比較では男子の指数低下が相対的に大きい。したがって農業労働力はこの20年間に全体として著しく高齢化を進行させ、かつ女性化を強めたことが明らかである。

この変動の結果として農業就業者の年齢ピラミッドは、図8にみられるように昭和50年における極端な高齢化が示される。とくに15～19歳の若年就業者は5.1万人（男3.7万、女1.4万）にとどまり、これは昭和45～50年において新規農業後継者が一段と縮小したことを示唆し、この若年層がそのまま25年後の昭和75年において40～44歳に達するならば、現在の40～44歳層83.6万人に対して僅か6%の大きさとなる。将来の農業経営の在り方は、この労働力の年齢別推移から決定的に変化せざるを得ない。

本来、農業就業者の減少は年齢コーホートの推移でみる必要があるが、その計算値は表14に示される。昭和30年における男子15～19歳、20～24歳コーホートは、昭和30～50年の5年ごとに15～25%の減少（農業離脱と死亡を含む）を続け、昭和50年には35～39歳、40～44歳となって、昭和30年の36%および42%に縮小している。女子の場合には54%、48%である。これはもし昭和50年における15～19

2) 「農林業センサス」および「農家就業動向調査」による現状分析についてはつぎの文献参照。

並木正吉、「農業人口の現局面について」、『農業総合研究』、第32巻第1号、1978年1月、77～105ページ。

歳(5.1万人)、20～24歳(22.2万人)の就業者が同様のテンポで20～25年間にわたって減少を続けるならば、事実上、中核的な農業労働力が消滅するほどのものである。したがって今後の農業生産および農業経営の維持に対して、どのような農業労働力が対応すべきか、とくに若年労働力の回復の可能性について、年齢コーホート面からの変化に注目する必要がある。

(3) 産業部門3区分における第1次産業就業者

農業労働力の高齢化を産業構成全体のなかに位置づけるため、産業3区分別就業人口構成を示した結果が表4である。ここでは昭和30年と50年だけを掲げている。昭和30年においては15～19歳就業者の33%（男女とも）は第1次部門に従事し、年齢とともに上昇して65歳以上で72%（男68%、女79%）に達していた。これが昭和50年には、15～34歳の4階級において僅か4～7%（男4～5%、女2～13%）のシェアに低下し、高齢者で20～40%台のレベルである。

このような第1次部門の減少分は、高齢者では第2次部門への移行割合が大きかったが、15～29歳の青年層になると第3次部門を大きく膨張させている。一般に産業発展とともに第2次部門よりも第3次部門就業者の増大が強まるが、これを農業労働力の側からいえば、相対的に流動性の高い第3次部門就業者、とくにその青年就業者を今後再び「農業主、農外従」労働力として、どの程度吸引しうるかが重要な課題となろう。

(濱 英彦)

表14 年齢コーホートによる農業就業人口の変化(昭和30～50年)

年次 年齢	昭和30→35	昭和35→40	昭和40→45	昭和45→50	昭和30→50
男					
計	0.8477	0.8336	0.8282	0.7746	—
15～19→20～24	0.7471	0.6893	1.3108	1.2025	—
20～24→25～29	0.7411	0.7093	0.8057	0.7799	—
25～29→30～34	0.8380	0.8105	0.8235	0.8124	—
30～34→35～39	0.8739	0.8750	0.8503	0.8202	0.3579
35～39→40～44	0.8864	0.9015	0.8559	0.8236	0.4206
40～44→45～49	0.8959	0.9215	0.8789	0.8496	0.5332
45～49→50～54	0.9076	0.9045	0.8948	0.8510	0.5893
50～54→55～59	0.9214	0.9748	0.9008	0.8880	0.6490
55～59→60～64	0.8490	0.8945	0.8534	0.8842	0.6712
60～→65～	0.5795	0.5872	0.6326	0.7381	0.1996
女					
計	0.9116	0.8236	0.8853	0.6723	—
15～19→20～24	1.0256	0.8497	1.8174	1.2916	—
20～24→25～29	0.8179	0.7702	1.0416	0.7885	—
25～29→30～34	0.9248	0.8664	0.9364	0.7447	—
30～34→35～39	0.9920	0.8992	0.9103	0.7288	0.5391
35～39→40～44	0.9410	0.9057	0.8915	0.7422	0.4788
40～44→45～49	0.9119	0.9030	0.9041	0.7676	0.5690
45～49→50～54	0.8689	0.8802	0.8819	0.7738	0.5720
50～54→55～59	0.8309	0.8428	0.8447	0.6880	0.5156
55～59→60～64	0.7752	0.7441	0.7966	0.6038	0.4093
60～→65～	0.5147	0.6311	0.4308	0.6956	0.1185

資料：表13から計算。

表15~(1) 男女年齢5歳階級・産業3区分別就業人口構成（昭和30年）

男女計

年 齢	実 数				割 合			
	総 数	第 1 次	第 2 次	第 3 次	総 数	第 1 次	第 2 次	第 3 次
総 数	39,261,351	16,111,216	9,219,905	13,930,230	100.00	41.04	23.48	35.48
15 ~ 19	4,429,153	1,429,818	1,470,448	1,428,887	100.00	33.03	33.96	33.01
20 ~ 24	6,375,988	2,041,426	1,852,267	2,482,295	100.00	33.02	39.05	38.93
25 ~ 29	5,510,554	1,983,305	1,348,686	2,178,563	100.00	35.99	25.47	39.54
30 ~ 34	4,289,511	1,660,569	1,002,033	1,626,909	100.00	38.71	23.36	37.93
35 ~ 39	3,687,414	1,446,706	860,444	1,380,164	100.00	39.23	34.34	37.43
40 ~ 44	3,679,911	1,458,864	852,421	1,368,626	100.00	39.65	23.16	37.19
45 ~ 49	3,248,236	1,388,791	689,315	1,170,130	100.00	42.76	21.22	36.02
50 ~ 54	2,781,130	1,349,181	510,004	921,945	100.00	48.51	18.34	33.15
55 ~ 59	2,160,140	1,195,059	380,254	634,827	100.00	55.32	15.29	29.39
60 ~ 64	1,495,377	97,2868	179,126	388,383	100.00	62.05	11.98	25.97
64 ~	1,703,937	1,229,629	124,807	349,501	100.00	72.16	7.32	20.51

男

年 齢	実 数				割 合			
	総 数	第 1 次	第 2 次	第 3 次	総 数	第 1 次	第 2 次	第 3 次
総 数	23,893,086	8,043,430	6,940,410	8,909,246	100.00	33.66	29.05	37.29
15 ~ 19	2,261,458	745,195	843,395	672,868	100.00	32.95	37.30	29.75
20 ~ 24	3,575,291	991,953	1,261,620	1,321,718	100.00	27.74	35.29	36.97
25 ~ 29	3,539,123	953,679	1,099,298	1,486,146	100.00	26.95	31.06	41.99
30 ~ 34	2,660,456	730,454	818,602	1,111,400	100.00	27.46	30.77	41.77
35 ~ 39	2,221,720	625,948	679,548	916,224	100.00	28.17	30.59	41.24
40 ~ 44	2,229,670	632,345	680,000	917,325	100.00	28.36	30.50	41.14
45 ~ 49	2,039,522	652,102	568,592	818,828	100.00	31.97	27.88	40.15
50 ~ 54	1,810,537	706,844	435,863	667,830	100.00	39.04	24.07	36.89
55 ~ 59	1,426,785	675,659	288,834	462,292	100.00	47.36	20.24	32.40
60 ~ 64	999,335	556,009	158,598	284,598	100.00	55.64	15.87	28.49
65 ~	1,129,189	773,242	106,060	249,887	100.00	68.48	9.36	22.13

女

年 齢	実 数				割 合			
	総 数	第 1 次	第 2 次	第 3 次	総 数	第 1 次	第 2 次	第 3 次
総 数	15,368,265	8,067,786	2,279,495	5,020,984	100.00	52.50	14.83	32.67
15 ~ 19	2,067,695	684,623	627,053	756,019	100.00	33.11	30.33	36.56
20 ~ 24	2,800,697	1,049,473	590,647	1,160,577	100.00	37.47	21.09	41.44
25 ~ 29	1,971,431	1,029,626	249,388	692,417	100.00	52.23	12.65	35.12
30 ~ 34	1,629,055	930,115	183,431	515,509	100.00	57.10	11.26	31.64
35 ~ 39	1,465,694	820,758	180,996	463,940	100.00	56.00	12.35	31.65
40 ~ 44	1,450,241	826,519	172,421	451,301	100.00	56.99	11.89	31.12
45 ~ 49	1,208,714	736,689	120,723	351,302	100.00	60.95	9.99	29.06
50 ~ 54	970,593	642,337	74,115	254,115	100.00	66.18	7.64	26.18
55 ~ 59	733,355	519,400	41,420	172,535	100.00	70.82	5.65	23.53
60 ~ 64	496,042	371,859	20,528	103,655	100.00	74.97	4.14	20.90
65 ~	574,748	456,387	18,747	99,614	100.00	79.41	3.26	17.33

資料：「国勢調査」各年。

表15～(2) 男女年齢5歳階級・産業3区分別就業人口構成(昭和50年)

男女計

年 齢	実 数				割 合			
	総 数	第 1 次	第 2 次	第 3 次	総 数	第 1 次	第 2 次	第 3 次
総 数	53,140,818	7,353,872	18,097,553	27,689,393	100.00	13.34	34.06	52.10
15 ～ 19	1,744,116	66,054	734,545	434,517	100.00	3.79	42.12	54.09
20 ～ 24	6,390,752	261,450	2,195,064	3,934,238	100.00	4.09	34.35	61.56
25 ～ 29	7,441,931	401,027	2,648,281	4,392,623	100.00	5.39	35.59	59.02
30 ～ 34	6,451,128	443,324	2,487,164	3,520,640	100.00	6.87	38.55	54.58
35 ～ 39	6,287,271	666,255	2,438,586	3,182,430	100.00	10.60	38.79	50.61
40 ～ 44	6,412,433	943,750	2,360,452	3,108,231	100.00	14.72	36.81	48.47
45 ～ 49	5,800,505	1,097,190	1,891,299	2,812,015	100.00	18.92	32.61	48.47
50 ～ 54	4,334,436	953,569	1,326,689	2,054,178	100.00	22.00	30.61	47.39
55 ～ 59	3,186,883	813,759	895,590	1,477,534	100.00	25.53	28.10	46.37
60 ～ 64	2,466,590	738,623	620,989	1,106,978	100.00	29.95	25.18	44.87
65 ～	2,624,773	968,871	498,894	1,157,008	100.00	19.01	36.91	44.08

男

年 齢	実 数				割 合			
	総 数	第 1 次	第 2 次	第 3 次	総 数	第 1 次	第 2 次	第 3 次
総 数	33,414,628	3,748,449	13,029,014	16,637,165	100.00	11.22	38.69	49.79
15 ～ 19	884,738	50,608	431,973	402,157	100.00	5.72	48.83	45.45
20 ～ 24	3,479,448	165,213	1,442,916	1,871,319	100.00	4.75	41.47	53.78
25 ～ 29	5,176,686	214,558	2,084,909	2,877,219	100.00	4.14	40.27	55.59
30 ～ 34	4,488,218	196,868	1,935,774	2,355,580	100.00	4.39	43.13	52.48
35 ～ 39	4,089,708	295,771	1,774,054	2,019,883	100.00	7.23	43.38	49.39
40 ～ 44	3,991,685	439,605	1,641,396	1,910,684	100.00	11.01	41.12	47.87
45 ～ 49	3,527,689	512,522	1,299,193	1,715,974	100.00	14.53	36.83	48.64
50 ～ 54	2,499,996	424,482	901,159	1,174,355	100.00	16.98	36.05	46.97
55 ～ 59	1,882,150	394,352	637,974	849,824	100.00	20.95	33.90	45.15
60 ～ 64	1,558,116	404,601	474,065	679,450	100.00	25.97	30.43	43.60
65 ～	1,836,194	649,873	405,601	780,720	100.00	35.39	22.09	42.52

女

年 齢	実 数				割 合			
	総 数	第 1 次	第 2 次	第 3 次	総 数	第 1 次	第 2 次	第 3 次
総 数	19,726,190	3,605,423	5,068,539	11,052,228	100.00	18.28	25.69	56.03
15 ～ 19	859,378	15,446	302,572	541,360	100.00	1.80	35.21	62.99
20 ～ 24	2,911,304	96,237	753,148	2,062,919	100.00	3.31	25.84	70.85
25 ～ 29	2,265,245	186,469	563,372	1,515,404	100.00	8.23	24.87	66.90
30 ～ 34	1,962,910	246,460	551,390	1,165,060	100.00	12.56	28.09	59.35
35 ～ 39	2,197,563	370,484	664,532	1,162,547	100.00	16.86	30.24	52.90
40 ～ 44	2,420,748	504,145	719,056	1,197,547	100.00	20.83	29.70	49.47
45 ～ 49	2,272,816	584,106	592,106	1,096,042	100.00	25.72	26.05	48.23
50 ～ 54	1,834,440	529,087	425,530	879,823	100.00	28.84	23.20	47.96
55 ～ 59	1,304,733	419,407	257,616	627,710	100.00	32.15	19.74	48.11
60 ～ 64	908,474	334,022	146,924	427,528	100.00	36.77	16.17	47.06
65 ～	788,579	318,998	93,293	376,288	100.00	40.45	11.83	47.72

資料：「国勢調査」各年。